

◇あとがき◇

毎年、上野の東京国立博物館で年明けの2週間だけ公開される国宝がある。桃山時代の絵師長谷川等伯の筆とされる松林図屏風である。激しい風雪に枝をねじ曲げ、あるいは耐えるように天に向かう松の林が霧に浮かぶ情景を描いた水墨画で、遠くに雪山がみえることから厳冬の風景とわかる。遠くからゆっくりこの屏風に近づいてゆくと突然、展示室の壁が消え、寒風吹き荒ぶ七尾の松林にいて、梢を渡る風の音が聴こえるような錯覚に陥る。日本水墨画の最高到達点とされる所以である。ところがこの作品には謎が多い。この屏風は何枚もの紙をつないで大画面にしているが、よくみると右隻、左隻とも紙のつなぎ目にずれがある。左隻には地面と思われる線が薄くみえるがこれも同様にずれている。紙のつなぎ目のずれを合わせると地面の線がぴったり1本になってより壮大な景色が現れることから、これは大きな絵を切って上下を合わせ、屏風に作り直したものとわかる。専門家は元々は大きな障壁画の下絵であったとしている。だとすれば狩野派が権力者と結びついて全盛の時代に、長谷川等伯が請け負ったそんな大きな壁をもつ建物とは何であったのか？謎は謎を呼ぶ。ここで本号のテーマの胆道閉鎖症に話がつながる。小児外科領域で病因から臨床像に至るまでこれほど未確立な謎多き疾患は他に思い当たらない。しかしながら胆道閉鎖症の研究は驚くほど多角的に活発に進められている。オルガノイドや細胞レベルでの解析、腸内細菌叢、病理と病因解明の基礎研究が展開している。診断、評価から長期管理に関する臨床研究も進んでいる。本号の特集は、近年の胆道閉鎖症に関する基礎ならびに臨床研究の俯瞰を狙って企画した。執筆の先生方には貴重な原稿をお寄せいただき、充実した1冊となったことを深く感謝している。松林に渡る風のように胆道閉鎖症研究の大きな流れを読者に感じていただければ幸いである。

(黒田達夫)

本誌広告取扱い

文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1

本郷宮田ビル 5階

TEL 03-3814-8541 (代) FAX 03-3816-0415

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上巻権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)東京医歯学社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に一般社団法人出版者著作権管理機構(TEL 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

「小児外科」第56巻第3号(2024年3月号)

特集 小児内視鏡外科手術と医療安全

巻頭言	世川 修
腹腔鏡下噴門形成術・胃瘻造設術後に胃穿孔のため複数回手術を要した1例	田中正史
腹腔鏡下噴門形成術、胃瘻造設術後出血に対して腹腔鏡下で止血しえた1例	泊卓志
腹腔鏡下に修復した膀胱損傷の1例	高橋 翼
胸腔鏡下横隔膜ヘルニア根治術後に胸腔ドレナージを要した4例	松田理奈
先天性横隔膜ヘルニアにおける胸腔鏡手術の安全な適応選択	川口雄之亮
当科で経験した内視鏡外科手術中のヒヤリ・ハット	田中聡志
当院における領域横断的内視鏡技術トレーニングの取り組み	工藤裕実
当施設での内視鏡外科手術における医療安全上の工夫	福永奈津
小児の内視鏡外科手術における静電沈着技術を用いた手術視野の安全管理	渡邊揚介
小児の内視鏡外科手術における合併症防止に向けた蛍光カテーテルの応用	清水 徹
気管ファイバー使用による、胸腔鏡下食道閉鎖症手術における安全性の向上	深田彩加
SILPEC術中トラブルや合併症に対するリカバリー	萩野 恵
腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術(LPEC法)における臍上縁小切開によるトロッカー挿入法	沼野 史典
医療安全の観点からみたすべての虫垂炎に対する保存的治療と待機的虫垂切除術	關根 沙知
腹腔鏡補助下鎖肛根治術における瘻孔の遺残を予防するための当科での工夫	八尋 光晴
音声指示・視線誘導による新規手術支援UIの小児内視鏡手術への応用と、内視鏡ホルダロボットとの併用による適応拡大の可能性	水野 裕貴
小児外科ロボット支援手術の導入 医療安全の観点から	深田彩加
成人消化器外科領域とのチーム医療—ロボット支援下胆道拡張症手術を安全に施行するために—	林 豊
腎盂尿管移行部狭窄症の術後再狭窄に対する後腹腔鏡下/ロボット支援後腹腔鏡下腎盂形成術:再手術2例報告	津久井崇文
ロボット支援後腹腔鏡下腎盂形成術「diamond bypass法とsimple non-dismembered法」	栢田理沙
小児外科手術時のポジショニングにより発生しうる末梢神経障害と理学療法士の介入による予防効果	小松加代子

名譽編集委員	秋山 洋	石原通臣	岩中 督
	大沼直躬	大谷俊樹	角田昭夫
	土岐 彰	長島金二	橋都 浩平
	山崎洋次	横森欣司	
	黒田達夫	浮山越史	金森 豊
編集委員	北川博昭	越永 従道	世川 修
	渡井 有		

小児外科

第56巻第2号

©2024年2月25日発行

定価3,190円(本体2,900円+税10%)

編集 小児外科編集委員会

発行 株式会社 東京医歯学社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-40-5

URL <https://www.tokyo-igakusha.co.jp>

編集部 TEL 03-3237-9112 (直) FAX 03-3237-9115

e-mail: shoge@tokyo-igakusha.co.jp

販売部 TEL 03-3265-3551 (代) FAX 03-3265-2750

e-mail: hanbai@tokyo-igakusha.co.jp

2024年前金予約購読料1年分49,280円(本体44,800円+税10%)

(小児内科・小児外科 合同増刊号を含む)

*送料は前金予約購読の方のみ弊社負担です